

特別支援教育におけるタブレット端末の活用
に係る調査・研究事業 第2回ミーティング

情報交流会 講評

NPO法人支援機器普及促進協会

理事長 高松 崇

1. 活用事例の分類

個別支援機器としての活用

空間認知の問題・視力の問題

カメラ（即時性）

音声読み上げ（音の利用）

コミュニケーションの問題

AAC（メール、VOCA）

手先が不器用

デジタル絵カード（操作性）

理解を深める

疑似体験

レジスタディ

興味関心意欲定着

漢字・九九の学習

(手書き・即時フィードバック・ゲーム性)

GoogleMap

繰り返し

動画の利用 (即時性・簡易性)

調べ学習

インターネットの利用

ご褒美的な利用

2. 課題・困り

使い方の指導 遊び・

操作（アクセシビリティ）

ねらいの見極め

ピッタリのアプリ（自分で作る）

アプリのダウンロード方法

タブレットの操作方法

有料アプリの内容を知りたい

タイマーで良いアプリ

アプリ内課金

数不足

小中連携（学部間での意識の差）

Youtubeに接続できない・Google画像が表示されない

知識・技能を養わないといけない

情報収集や基本技能習得の場が欲しい

3. ポイント

タブレット端末である 必要性はあるか？

調べ学習・カメラ⇒二次的な利用

即時フィードバック⇒必要な環境での利用

教科学習に拘らなくて良い

タブレット端末の 特性を活かす

携帯性 (どこでも)

即時性 (いつでも)

操作性 (だれでも)

手書き

カメラ+コンピュータ (二次利用)

音の扱い (聴覚支援)

大きな画面 (拡大・ズーム)

子供たちの将来像を 描く

手書きでのなぞり書き

ATとしての利用

(特別な活用ではなく、
当たり前に見える)

そもそもの困りを補完する

先生方のねらいは何？

つけさせたい力は？

手書きでのなぞり書き

ゲームと教材境目は無い

柔軟な発想と、子どもと楽しむ気持ち